平成 20 年度　文部科学省委託

総合的な放課後対策推進のための調査研究

放課後活動支援モデル事業

君が主役だ！すてきな「アート」体験

報告書

特定非営利活動法人　みやざき子ども文化センター

「放課後活動支援モデル事業」は

全ての子どもたちに

文化芸術をとおして

人との出会い・遊び・学びの場を

提供することを目的にしています

人間が大昔からつくってきたもの、

なーんだ？

・・・いろいろあるよね。

歌や、踊りや、絵や、建物や、

生活に使う道具や、そのほかたくさん！

そういうものをつくるときに、

目、耳、声、手、足、舌、身体全部と

「心」をつかって生まれてきたものを

「アート」っていうんだよ。

みんなの住む街には、

アートの世界で活躍している、

すごくておもしろい、

おとなの人がたくさんいるよ。

そんなおとな達に出会って、

君もいっしょに

「アート」を体験してみない？

平成 20 年度　文部科学省委託　放課後活動支援モデル事業

君が主役だ！すてきな「アート」体験　報告書

目　次

No.	アート体験名	講　師	
1	子どもゴスペル隊	岩切　詩子	2
2	パーカッションに挑戦	上之園　謙治・川﨑　圭子	4
3	君もデザイナーになろう	金丸　二夫	6
4	キッズダンサー	みのわ　そうへい	8
5	いのちの話	藤田　美和	10
6	ウクレレに挑戦	神崎　充・道本　晋一	12
7	わらべうたとてあそび	永友　悠貴子	14
8	あかちゃんと出会う	保育施設	16
9	落語を体験してみよう！！	桂　歌春	18
10	木工教室	川上　宰	20
11	写真家になって私たちの“まち”を発見しよう！	芥川　仁	22
12	楽しいクラシック	土田　浩	24
13	模造紙に大きな絵を描こう	緒方　紀子	26
14	木の博士入門	井上　龍一	28
15	アンブレラ・あんぶれら・傘に絵を描く	上口　将生	30
16	等身大の自分を作ってみよう！	緒方　紀子	32
17	津軽三味線　～心で感じよう、日本の音～	村上三紘道	34
18	飛び出す絵本を作ろう	後藤　麻夫	36
19	アナウンサーになろう！	細田　史雄	38
20	緑のアート・盆栽	野元　大作	40
21	火で絵を描こう！	黒木　郁朝	42

講師アンケートより …… 44
保護者の声 …… 48
体験実施日程 …… 50
事業経緯 …… 53
奥付 …… 54

NO. 1

子どもゴスペル隊

講師／岩切　詩子（音楽講師）

テーマ

〇形にとらわれることなく自由に、思いっきり大きな声で歌を歌い、そのことを楽しむ
〇声が小さい、自分を表現することが苦手といわれる子どもたちが日常的に歌を歌い、人前で披露するという体験を重ねていく中で、自分を表現することの喜びや自信を持つようになる

実施回数	11 回		2h × 11 回	ジャンル	音楽		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
	○	○	○	○	○	サポーター	4 人

子　ど　も　の　声

〇体を動かしながらして楽しかった。（小４　女子）
〇オーハッピーディのふりつけが楽しかったです。（小１　女子）
〇さむかった。立ってるのがつらかった。（小３　女子）
〇ハモリがやばく楽しかったです。（中２　女子）
〇まだずっとやりたい。（小１　女子）
〇いろいろなうたをおぼえられてよかったです。（小３　男子）
〇いろいろな人が来て、いろいろふれあえてうれしいです。（小３　女子）
〇友だちがふえて楽しかった。（小３　女子）

プログラムプロセス

STEP 1　自由に大きな声で！

楽譜を見ながらでも、とにかく大きく自由に歌うことを心がけ、歌うことになれていく。

STEP 2　楽しそうに！

自分達の歌を聞いてくれる人達がいる。そのことを意識、考えながら歌うだけではなく表情もつけていく。

STEP 3　ダンス！

ゴスペルには、動作（ダンス）も入ってくる。歌いながらダンスを踊る練習を重ねる。

STEP 4　コンサート

目標（コンサート）に向かって練習することで、ゴスペル隊が１つになる。

実施の様子

子どもたちが思いっきり自由に大きな声で歌ってほしいとの思いから始まった子どもゴスペル隊は、思った以上の流れと成果になりました。応募が殺到しすぐに定員になるほどの人気でした。

練習がスタートして、小さな声で遠慮がちに歌っていた子どもたちは本場ニューヨークからのゴスペル公演が宮崎で行われ、そのステージに立ったことで、子どもたちは大きな刺激を受けました。その後、子どもたちは回を重ねるごとに生き生きとした表情で歌い、踊るようになり本物との出会うことの大切さをしりました。

このゴスペル隊をとおして、それぞれが違う学校から来ている子どもたちは友達となり、それが保護者たちへの連帯感へとつながり多くの保護者もこのプログラム終了後の継続を強く希望しています。

講師プロフィール

■岩切詩子（いわきり　うたこ）

ヤマハ・ポピュラーミュージックスクールでヴォーカル＆ゴスペル講師の傍ら、自作の作詞・作曲でのライブ活動、学校の鑑賞教室への参加を行っている。また、多くの CM 曲を歌っている。

NO.2

パーカッションに挑戦

講師／上之園　謙二、　川﨑　圭子　（音楽家）

テーマ

○さまざまな演奏法のあるパーカッションを実際に見て、触る
○ボディーパーカッションや手作り楽器などをとおして音を楽しみ地域の音楽家と出会う

実施回数	2 回		2h ／回	ジャンル	音楽		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	2 人
		○		○	○	サポーター	3 人

子　ど　も　の　声

○いろいろおもしろかった。（小 1　女子）
○いっぱいがっきをたたいた。（小 1　男子）
○もっとしたかった。（小 3　男子）

プログラムプロセス

STEP 1　リズムでこんにちは

音に合わせて、体を動かしボディータッチをしながらのコミュニケーション。

STEP 2　体が楽器

かんたんなリズムでボディーパーカッション。

STEP 3　自分だけの楽器

ペットボトル、ビーズ、すずを使ってパーカッションを作る。

STEP 4　絵と音のドッキング

マークや言葉に合う音をたくさんの打楽器から探す。

実施の様子

参加者は、小学１年生～中学２年生までの幅広い年齢だったため高学年の子どもの中には低学年のように素直に自分を表に出せないという場面もありました。

２人の講師は、たくさんの楽器、めずらしい打楽器を持参してくださり子どもたちは話よりも早く楽器に触れたい様子でした。プログラムのボリュームが少し多いようにも感じ、せっかく作った楽器をもっと使ってやったほうがよかったかもしれないと思いましたが、子どもたちはあきずに集中していました。

講師コメント：

・興味がある！！というのが、いろんな表現で感じました。

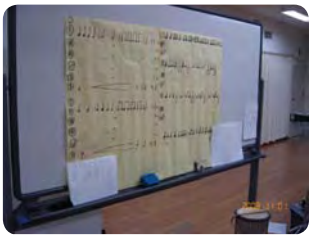
・授業にするか、コミュニケーションを大事にするか迷ったが、子どもたちの様子をみながら変化させました。

・自由奔放に「楽器」を「おもちゃ」として扱っていることを・・・「よし」とも思うのですが、（自分の楽器ということももちろんありますが）スティック類を置くときに捨てるように、落とす姿を見るのはちょっと寂しかったです。

講師プロフィール

■上之園　謙治　（うえのぞの　けんじ）
パーカッショニスト・ドラマー。津軽三味線奏者の石井秀弦氏らと音楽活動を展開中。また、後進の指導・育成にも力を注いでいる。

■川﨑　圭子　（かわさき　けいこ）
１９８９年国立音楽大学声楽科卒業。現在、県内の音楽家と音楽を身近に感じる「小さな音楽会」を各地で開催。



NO.3	君もデザイナーになろう 講師／金丸　二夫（グラフィックデザイナー）
テーマ	○デザイナーの手法であるトリミング（いいところを切り取る）を知ってもらう ○「デザインをする」とはどういうことなのかを実際にそれぞれが作品を作りながら学ぶ ○作品に一手間加えると芸術品になることを知る

実施回数	2 回		2h ／回	ジャンル	芸術		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
	○	○	○	○		サポーター	3 人

子　ど　も　の　声

○絵やぬるのがたのしかった。（小２　女子）
○すみでいろいろな木をかいたところがたのしかった。（小２　男子）
○木をいっぱいかくのがおもしろかった。（小２　女子）

プログラムプロセス

STEP 1　デザイン

赤ペンで模様を画用紙いっぱいに描く。そして、それぞれの模様に１つずつ違う色をぬってデザインしていく。

STEP 2　トリミング

画用紙の中で一番いいところを切り出し（トリミング）、額に入れる。

STEP 3　思いのまま

いろいろなものを筆にして、絵のような『木』を思い思いに描く。そして、トリミングをして折り紙で作ったオリジナルのハンコを作品に貼る。

STEP 4　共同製作

３ｍの布に全員で絵のような『木』を描いて１つの森をつくる。

実施の様子

「デザインって何？」子どもたちの中には、どんなものが出来上がるか想像もつかず、なかなか集中して取りかかることができない子もいました。

普段、学校などで決められた大きさの紙に描いている子どもたちが、描いたものの中からいい部分を切り取り（トリミング）をして違うもの、さらに、いいもの（作品）、どこをどう切り取るかによって作品が変わること、どこを切り取ると作品がかっこよくなるかを考える楽しさ、不思議さを最後には感じている様子でした。

参加者の多くは低学年で、講師ではなくスタッフに１つ１つ「どうするの？」と聞いてくる場面もあり、どのくらい子どもたちにかかわっていいのかとスタッフまた講師を含めて話をしました。カッターを使って消しゴムでハンコをつくる予定でしたが、赤い折り紙を手でちぎってハンコにするなど、参加者の年齢をみて内容の取り組みの仕方を講師と再検討するなどの連携ができました。

講師コメント：気ままに描くという段階から、意識して組み立てる思考力をつける意味でも自分の表現したいものを他人の目にさらして、ある程度比べられるという意味でも経験が大切だと思う。

講師プロフィール

■金丸　二夫　（かねまる　ふたお）

Design works 主宰。ポスターやロゴなど、幅広い分野のデザインを手がけている。

NO.4	キッズダンサー 講師／みのわ　そうへい（振付家・ダンサー）
テーマ	○子どもたちの心を開放して、創造性・感受性を豊かにする ○自分が思ったこと、感じたことを身体を使って表現する楽しさを知る

実施回数	10 回		2h ／回	ジャンル	舞踊		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
	○	○	○	○	○	サポーター	3 人

子　ど　も　の　声

○ただおどっているだけではなく、回ったり新聞紙をつかったりした。（小 2　男子）
○先生は、すごいとおもった。（小 1　男子）
○からだがやわらかくなった。うごけるようになった。（小 1　女子）
○だんすがすきになった。ダンスはおもしろい。（小 1　女子）
○ほかのことよりたのしかった。しんぶんであそぶのは、たのしい。（小 1　女子）
○手本を見ずに、おどれるようになった。（小 2　男子）
○ダンスはこんなにたのしんだな～と思った！！（小 3　女子）
○体を自分の好きなポーズにする事をして、ダンスが楽しくできるようになった！（小 5　女子）

プログラムプロセス

STEP 1　見てまねる（静）

バレエ等の写真の中から好きなポーズを決めて、それを自分で表現する。次にイメージしたものを自分の体を使い高低・走り方・飛び方の変化を入れて表現する。

STEP 2　表現するために

音楽、割箸、新聞などを使いイメージをふくらませていくと共にリズム遊びも取り入れて体を自由に動かせることのおもしろさを体験する。

STEP 3　身体を意識させる

ペアで１本の割り箸を使い、落とさないように互いに動かすことで、割り箸への意識が、次第に身体へと反映される。

STEP 4　見てまねる（動）

新聞紙を使いペアで新聞の動きをまねし、次に身体を使って新聞の動きを表現する。

実施の様子

毎回、「身体で表現する」「表現することが楽しい」に向かって実施していると思っていたが、全体を最初から振り返ってみると、毎回手法など似ているようであるが講師にしか見えない子どもたちの変化をとらえての次の実施があったのだと思う。

実施当初は、「どうすればいいの？」と聞いていた子どもたちが回を重ねていくごとに「表現の楽しさ、おもしろさ」を感じて自分から動き回る（表現する）子どもが増えてきた。そして、「表現したことがおもしろかった。」「楽しかった。」という声がどんどん増えていき、子どもたちの表情が回を重ねるごとに変わっていくのが、講師、スタッフ、そして見学していた保護者にもその変化が見ることができ、毎回「今日は、どんな表情を子どもたちが見せてくれるのか」がとても楽しみだった。

上記の４ステップの次には小さいストーリーをつくり、それを表現して作品に仕上げるという体験をした。最終回では、今までの体験を再度行った。子どもたちは今までの体験が楽しい表現活動の場であったことを私たちに“思いっきり踊る”ということで表現してくれた。

講師プロフィール

■みのわ　そうへい

NPO 法人　MIYAZAK　C ー DANCE CENTER　代表理事。アーティスティックなダンスで豊かな感性を拓くような活動を展開。大学でダンス入門。『踊るスポーツマン』に所属し、０４年Ａｒｔ．Ｍ．ｉｎトヤマにて松本千代栄賞受賞。

NO.5	いのちの話 講師／藤田　美和（助産師）
テーマ	○助産師さんから直接はなしを聞いて、命について考える ○命がどのように育つかを知る ○自分がどのように生まれ、育ってきたかを考え自己肯定感をもつ ○助産師の仕事について知る

実施回数	1 回		2h ／回	ジャンル	保健福祉		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
	○	○	○	○	○	サポーター	3 人

子　ど　も　の　声

○あかちゃんがうまれるのってすごいな。なんでおしりからでるんだろう？と思いました。（小 1　女子）

○くろうしてうまれてくることをかんじました。（小 2 男子）

○ビデオとか説明があっておもしろかった。あかちゃんてすごいなと思いました。（小 4　男子）

○助産師さんについてぜんぜん知らなかったけれど、今日知ってみてびっくりしたことがたくさんありました！！
帝王切開と普通に産むのはどっちが痛いのかな！？と思いました。（中 1　女子）

プログラムプロセス

STEP 1　命の始まり

卵子・精子の画像や、妊娠８週目の胎児の写真などを見ながら「命の始まり」についての説明。

STEP 2　妊娠１２週目

妊娠１２週目の胎児の実物大・実物の重さの人形を順番にさわる。

STEP 3　妊娠４０週目

妊娠４０週目までの人形を抱いたりし、次第に大きくなる胎児の様子を実感。

STEP 4　誕生

出産の様子のビデオを観たあと、助産師の視点から実際に赤ちゃんが生まれてくるときの様子について説明。

実施の様子

あかちゃんと母親を支え、出産に立ち会う助産師さんから、命がどのように育ち生まれてくるかのお話しを聞ききました。親子で参加する組が多く、男子・女子の割合も同じくらいであった。低学年が多かったが、中学生の参加もありました。参加の理由は、「ままがあかちゃんをうむから」「赤ちゃんがどんなふうにでてくるのか知りたかった」「ゆめが助産師さん」などがありました。

受精の説明のために卵子と精子の画像をつかって説明していただきました。卵子をみて「でかい！」精子をみて「小さい！」と感想を言い合う子どもたちは実物大の胎児の人形をさわり、どんどん成長していく様子を実感していました。最後には、出産のシーンの映像をとおして、あかちゃんとおかあさんが必死になっている様子、生まれてきたときの安堵と感激の気持ちに全員が触れることができました。参加者の中には、助産師さんにかぶりつくように話をきいている子どももいました。

講師プロフィール

■藤田　美和（ふじた　みわ）

和歌山県出身。宮崎にて４人の子どもを育てながら助産師として働き、病院での永年のキャリアを積んだ後、平成１７年１２月に藤田助産院を宮崎市に設立する。

NO.6

ウクレレに挑戦

講師／神崎　充、　道本　晋一（音楽講師）

テーマ

○楽器を聴くだけではなく、弾ける楽しさ知る
○楽器を練習して１曲弾けた時のうれしさを体験する

実施回数	２回		2h／回	ジャンル	音楽		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	２人
		○	○	○		サポーター	４人

子　ど　も　の　声

○ウクレレを初めて触り、実際にひけたことが楽しかった。（中２　男子）
○ジングルベルがひけて楽しかった。（小６　男子）
○ウクレレの音が良くて、実際にひいてみて楽しかった。（小６　男子）

プログラムプロセス

STEP 1　音色

2本のウクレレの演奏を聴く。

STEP 2　ウクレレとは？

どのようにウクレレ（弦楽器）はできているのかパーツを見せながら楽器紹介。

STEP 3　練習

ウクレレに触れながら、右手・左手の使い方を学び、曲の練習をする。

STEP 4　セッション

最後にみんなで合奏をする。

実施の様子

ウクレレは、ギターのように単音でメロディーを弾くというよりは、コードをかき鳴らしながら歌を歌うときに使われたりするため、弦楽器に最初に触れるものとしては入りやすい楽器でした。

楽器の見た目が小さいから簡単に演奏ができると思っていた子どもたちもいましたが、弦を指で押さえるのがつらくなりながらもチャレンジしている子どもや少しでも弾けるようになろうと講師に話しかける子どももいました。

参加者の年齢層が、低学年：高学年＝３：１だったため、高学年にとってはやりにくかったと思いますが、それぞれの子どもに合わせて講師が１人１人に声をかけ指導してくれたことで、「できない」という子どもがいませんでした。１回目の体験が終わった後にウクレレを購入し１回目でやった曲を親子で練習をして２回目には暗記をして、最後に講師と一緒に演奏する姿もありました。

講師コメント：

・2時間弱の長い時間でしたが、最後までたのしんでいたのではないだろうか。
・楽器に触れて楽しそうで、いきいきしていた。これをきっかけに楽器に親しんでくれるようになったら幸いです。
・素直で積極的であり、覚えがよかった。
・ウクレレ以外のネタでも何かやりたいですね。

講師プロフィール

■神崎　充　（かんざき　みつる）
加山雄三で音楽に目覚め、ベンチャーズでギターに目覚める。ヤマハ・ポピュラーミュージック・スクール講師を勤めるかたわら演奏活動やＣＭ制作、作曲活動など幅広く音楽活動を展開中。自己のバンド「Kanchang & NG's」で宮崎市内の小中学校にてスクールコンサートを行い、子どもたちに音楽の楽しさを伝導している。

■道本　晋一　（みちもと　しんいち）
中学校１年よりアコースティックギターを始める。ヤマハ・ポピュラーミュージック・スクールで講師を勤めるかたわら音楽制作、レコーディング等での演奏を手掛けている。特殊奏法や効果音を積極的に取り入れたギタースタイルでライブ、イベントで活動を行っている一方、ラジオのパーソナリティーとしても活躍。

NO. 7

わらべうたとてあそび

講師／永友　悠貴子（保育士）

テーマ

○わらべうたや手遊びを学ぶ
○人とふれあいながら遊ぶことを体験する

実施回数	1 回		2h ／回	ジャンル	保健福祉		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
		○	○	○	○	サポーター	3 人

子　ど　も　の　声

○ともだちがやさしくしてくれた。あかちゃんがよろこんでもらえそう。（小 2　女子）
○たくさんのことを学べた。また機会があったらやってみたいです。（中 1　女子）
○保育士を目指しているので将来に役立てたいです。とてもたのしいのでやってみたいと思います。（中 3　女子）
○将来使えそうなのがいっぱいあり今日は最高に楽しかったです。また、こういうのがあればぜひ参加したいです。（中 3　女子）
○わらべうたや手遊びをもっとたくさん知りたい。（中 3　女子）

プログラムプロセス

STEP 1　てあそび

自己紹介をし、手遊びやわらべうたがしやすい雰囲気づくり。

STEP 2　てあそび　2

「おすわりやすいすどっせ」「東京都日本橋」「おてぶしてぶし」など簡単な手遊びを学ぶ。

STEP 3　わらべうた

集団であそぶわらべうたを学ぶ。年齢に応じて遊びを変化させていく方法も教わる。

STEP 4　あそびの展開

人形や手作りのおもちゃなどでも遊ぶ。身近にあるもので作って遊ぶ方法も紹介。

実施の様子

わらべうたや手遊びは、本来子どもたちの遊びや育児の中で行われ伝えられてきました。しかし、人とのふれあいが少なくなってきた昨今、わらべうたを知らない子どもたち、親たちが増えている傾向にあります。また、逆にわらべうたや手遊びを知らないために、自然に人とふれあい歌ったり、遊んだりする機会を作れない人も少なくありません。この講座では実際にわらべうたを歌い、手遊びを教わる中で楽しい時間を過ごし、自然に人と関わることを体験しました。

参加者のほとんどが、保育士を将来の職業として目指している子どもたちだったので、非常に熱心に話を聞き、参加をしている姿が見られました。

自己紹介などをしたり、手遊びを少しずつしていくうちにだんだんと緊張がほぐれて遊びに集中していきました。わらべうた・手遊びは、中学生にとっても楽しめるもので、二人一組で行う手遊びや、集団で行う遊びなども習いました。将来保育士を目指している参加者が多いということで、乳児から年長までの子どもたちと遊ぶには、どんなものがいいかを教えてもらいました。そして、同じ遊びでもルールを変えるなど少しの変化を加えるだけで、幅広い年齢層で楽しめるものになることも教えていただきました。

講師プロフィール

■永友　悠貴子　（ながとも　ゆきこ）

元石井記念こひつじ保育園（宮崎市）園長。現在、県内外の保育園や子育て支援の施設などにおいて、わらべうたや手遊びの普及に取り組んでいる。

NO.8

あかちゃんと出会う

講師／宮崎市内４ヶ所保育施設

テーマ

〇小さな子どもの世話をする機会の少ない子ども達に、そうした機会をつくる
〇命を育む大変さと楽しさを実感し、親や身近なおとなへの信頼を持つきっかけをつくる
〇小さな子どもと接し、世話をすることで自己の肯定につながる

実施回数	1 回		3h ／回	ジャンル	保健福祉		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	4 人
	○		○	○	○	サポーター	4 人

子　ど　も　の　声

○うばぐるまをおしてみてたのしかった。（小１　女子）
○子どもが毎日どんなことをして楽しいか、毎日どんな遊びをしているかを知った。（小５　女子）
○もっとたくさんの事を知って小さな子どもたちのあつかい方になれたり、もっといろんなことを知りたい。先生たちがどんどん次のことをこなしていったのですごいなあと思いました。（小６　女子）
○子どもたちは元気よくてかわいい子ばっかりでした。ますます保育士になりたくなった。初めての体験がたくさんできました。（中１女子）
○大変だったけど、楽しかったしとてもいい体験になりました。（中２　女子）
○保育士の大変さややりがいがわかって、また来たいと思った。（中３　女子）

プログラムプロセス

1　中央保育園

おやつ時の補助の様子。

2　ポッポの家

朝の遊びの時間。子どもたちと一緒に遊んでいる様子。

3　八幡保育園

朝の遊びの時間。子どもたちと一緒に遊んでいる様子。

4　キッズルーム

一時預かりの子どもをベビーカーで散歩に連れていっている様子。

実施の様子

参加者は小学１年生から中学３年生までと幅広い年齢層で全員女子でした。

市内の保育園３園では、保育現場での体験として朝の掃除やお集まりから始まり、子どもたちを午睡のために寝かしつけるところまでを行いました。

最初、子どもたちの中に入るのが難しいのではと心配されましたが、ほとんどの参加者が積極的に小さな子どもたちとかかわりを持ちすぐにうち解けていました。各保育園とも参加者にとって充実した体験ができたことが感じられました。小学校低学年の参加者は保育園ではなく、みやざき子ども文化センター内にあるキッズルームで、一時預かりのあかちゃんのお世話を体験しました。ミルクをあげたり、乳母車を押してみたりと初めてのことにはりきってやっていました。

参加者は、だっこしたりトイレの補助をするなどの経験から、小さな子どもの世話には大変さと楽しさの両方あることや年齢別に世話をする方法が変わるなどを知り、自分の親にしてもらったことを思い出していました。さらに、将来保育士になりたいというあこがれを持つなど、自分の未来を考える機会になっていました。

講師コメント：

〇事故防止・安全対策と、より一層このような機会を充実したものにするために、事前に参加者に対し、何らかの保育に関する講習を行うことが必要と思われた。

〇とてもよく子どもたちと遊んでもらって保育園の子どもたちが喜んでいた。

講師プロフィール

■体験実習施設：宮崎市内４ヶ所保育施設

・社会福祉法人宮崎福祉会　中央保育園
・社会福祉法人宮崎八幡福祉会　八幡保育園
・共同保育所　ポッポの家
・特定非営利活動法人みやざき子ども文化センター　キッズルーム

NO. 9

落語を体験してみよう！！

講師／桂　歌春　（落語家）

テーマ

○「落語」についてくわしく知る
○「落語」をしっかり聞く
○「小噺」を実際にやってみる

実施回数	1 回		2h ／回	ジャンル	芸能		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
		○	○	○		サポーター	3 人

子　ど　も　の　声

○はなしがおもしろかった。（小２　女子）
○１人で２りのげきをしていたからおもしろかった。（小２　女子）
○自分一人でステージの上でらくごをいいたい。（小３　男子）
○らくごのおもしろさをもっとしりたい。（小２　男子）
○わらいすぎて、楽しかった。（小２　男子）

プログラムプロセス

STEP 1　落語って？

落語、小噺についての話を聞く。

STEP 2　小道具

落語で使う小道具など（扇子・手ぬぐい・座布団・出囃子）についての説明。

STEP 3　小噺を１つ

実際に落語を聞く。

STEP 4　挑戦

子どもたちが簡単な落語に挑戦。

実施の様子

「落語って知ってる？聞いたことある人！」と聞くと子どもたちは一斉に手をあげました。よく聞いてみると・・・「テレビで見たことがある。」子どもたちがほとんどでした。数名の子どもたちが CD などでよく聞いているということでしたが、実際に生で「落語」を聞くのが初めての子どもたちがほとんどでした。

講師の話を熱心に聞き、普段から着物を着ている人を見る機会が少ない子どもたちは、袖から小道具の手ぬぐいや扇子などが出てくることに驚いたりしていました。

子どもたちが待ちにまった落語の小噺が始まるとお腹を抱えて笑っていました。子どもたちにも落語に挑戦してもらおうと講師が声をかけると、自ら手を挙げ２回挑戦する子どももいました。挑戦した子どもたちは、それぞれ聞く人におもしろく聞かせようとする工夫が見られました。落語をする方も見る方もどちらも落語を楽しんでいました。

講師プロフィール

■桂　歌春（かつら　うたまる）

１９４９年宮崎県日向市生まれ。西南学院大学在学中、落語家を志し上京。１９７０年故・桂枝太郎に入門。「桂枝八」となる。１９７９年桂歌丸門下に移籍。「桂歌はち」に改名。１９８５年「桂歌春」で真打昇進。１９８６年第２９階国立演芸場花形若手演芸会新人賞銀賞受賞。現在、東京板橋区在住。

NO. 10

木工教室

講師／川上宰（川上木材）

テーマ

〇木に触れ、木のもつやさしさ、心地よさを感じる
〇木片から思いもかけない作品が生まれることを知る

実施回数	2 回		2h ／回	ジャンル	芸術		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
		○	○	○		サポーター	3 人

子　ど　も　の　声

〇木のにおいがした。（小４　女子）
〇さいしょはガタガタしてむずかしかったけど、なれたら一人で作れるようになった。（小４　男子）
〇もっといろいろつくりたい。（小３　男子）

プログラムプロセス

STEP 1　切り抜き

型紙を貼った木を糸のこぎりで切り抜く。

STEP 2　カーブ

カーブを切り抜くのがとても難しく、先生に補助をしてもらいながら細かい作業を行う。

STEP 3　色ぬり

切り抜いた木片は、やすりをかけ、思い思いの色をつけていく。

STEP 4　完成

パーツによって色を変えるなど、それぞれの組み木の作品が完成。

実施の様子

木の香りがする木工所で講座は行われました。

参加者は、親子連れが多く特にお父さんの姿が他の講座よりも多く見られました。普段使うことのない電動糸のこぎりを使い、型紙どおり木をくりぬいていく作業は見た目よりとても難しく、かなり集中力のいる作業でした。そのため、低学年の参加者は保護者と一緒に作品を作りました。

１枚の板から形に切り抜き、色をつけて１つの組み木が完成するまでおよそ２時間かかりました。かなり細かい作業ではありましたが、参加者は完成品にとても満足していました。

日曜大工で家具をつくるなどの一般的イメージの「木工」ではなく「組み木」というジャンルを初めて知った方も多かったようですが、子どもだけでなくおとな、特にお父さんが熱心に作品作りにかかわっている様子が見られました。

講師プロフィール

■川上宰（からかみ　おさむ）

木育インストラクター。大学卒業後、家業の（株）川上木材に入社。現在、代表取締役。社内で月１回、木工教室を開催。

NO. 11	写真家になって私たちの“まち”を発見しよう！ 講師／芥川　仁（写真家）
テーマ	○写真家と出会い、写真を撮ることのおもしろさに気付く ○カメラを持って“まち”に出ることで“まち”をじっくり見て今まで気付かなかったことを発見する ○まちで撮った写真の中から、これだと思う写真を選ぶ『編集』を体験する

実施回数	4 回		2h／回	ジャンル	芸術		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
	○	○	○	○	○	サポーター	3 人

子　ど　も　の　声

○五まいえらぶのは、たいへんでした。（小 1　女子）
○むずかしいしつもんをきかれた。もっといっぱいえらびたかった（小 2　女子）
○しゃしんをとるのがたのしい。（小 4　男子）
○いろんな、写真があってえらぶのが大変だった。（小 5　男子）
○すごくいろいろ勉強できて楽しかったです！！（小 6　女子）
○写真はいろんな表現の仕方があるんだなと思いました。（小 6　女子）
○この前の写真が大きくなってすごい写真になっていた。（小 5　男子）

プログラムプロセス

STEP 1　出会い

写真家に出会い、カメラを手にする。

STEP 2　撮る

“まち”を歩き“まち”を発見する。

STEP 3　選ぶ・考える

“選ぶ”こと。その理由づけ。そして編集。

STEP 4　まちの中で

作品の展示と鑑賞。

実施の様子

カメラを持って子どもたちが“まち”に出て、写真を撮る様子は、さまざまで「これ！あれ！」と即決で被写体を決める子どもや「どれにしよう？」となかなかシャッターを押さない子どももいました。

みんなが撮ってきた写真をそれぞれ並べて見てみると、それぞれの子どもたちの思考や視点がはっきり写真に映し出されていました。編集作業をする中で、“まち”のなかで撮ってきた写真の中からお気に入りの写真をえらぶ子どもたちに講師は、「なぜ、その写真を選んだのか」「どうして、この写真を選ばなかったのか」と問いかけました。子どもたちはその問いかけになかなか答えられないでいましたが、じっくり答えを練り出し言葉にして伝えていました。この「自分の答えを内から引き出し言葉にして伝える」ということは、子どもたちとっては困難なことだったようですが、答えを練り出すことでそれぞれの個性を引き出し、子どもたちの作品の世界観がさらに広がりました。

編集をして、ボードへのディスプレイの際には子どもたちからの提案で、あいたスペースに絵を描いたり、文章を入れたりと子どもたちの作品への想いが伝わってきました。

講師プロフィール

■芥川　仁　（あくたがわ　じん）

１９４７年愛媛県生まれ。１９７０年法政大学社会学部二部応用経済学科卒業。１９９２年以後フリーランス写真家。写真集「輝く闇」で宮日出版文化賞受賞。（協）日本写真家ユニオン所属。（社）日本写真家協会会員。

NO. 12 楽しいクラシック

講師／土田　浩（音楽家）

テーマ

〇生の音楽に触れる
〇音楽を聴いて想像（imagination）する
〇音楽を聴いて創造 (creation) することで表現することまた考える力を育てる

実施回数	1 回		2h ／回	ジャンル	音楽		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
		○	○	○		サポーター	3 人

子　ど　も　の　声

〇えをかいたのがたのしかった。（小 1　女子）
〇いっぱい曲が聞けたこと。（小 3　男子）
〇すきなきょくがあった。（小 1　男子）
〇いっぱいのきょくをきいた。（小 1　男子）
〇かいたことがたのしかった。（小 1　女子）

プログラムプロセス

STEP 1　imagination

１つの写真（絵）を見ながら２つの違う音楽をピアノで弾いてもらい聞こえてくる音楽によってその写真（絵）が違う風景（イメージ）になることを知る。

STEP 2　creation

４つの違う音楽を聴きながら、感じたもの、イメージしたものを絵にしていく。

STEP 3　個性

それぞれ発表しあう。同じ音楽を聴いていても、１つとして同じ絵にはならない。

STEP 4　生の音

チェロの演奏を間近で聞く。

実施の様子

普段、音楽の演奏方法を教えている講師に「音楽」＝「楽器を奏でる、聴く」という学校等で行うような音楽の授業ではない形で「音楽」、特に講師の専門であるクラシック音楽を取り入れたプログラムを子どもたちに体験させたいという想いもあり、講師とアイディアを出し合いながら内容を作っていきました。

当日、色鉛筆やクレヨンを持って子どもたちが集まった所は、グランドピアノや譜面台、チェロが置いてある練習室でした。「これから何が始まるの？」「自分たちが持ってきた色鉛筆やクレヨンはどのように使われるの？？」と気になっている子どももいました。

同じものでも音楽が違えば見ているものが違って感じたり、作曲者はどんなものを音で表しているかを考えて当てっこしたりしながら、少しずつ「音楽＝聴く」から「音楽＝想像」することを体験していきました。

その次に、音楽を聴きながら自由に想像し、それを紙の上に描くということを体験していきました。当初、難しいかもしれないと思っていましたが子どもたちの多くは、すんなり思いのままに絵を書き始めました。

参加者の中には、ヴァイオリンなど音楽を習っている子どもたちもいましたが、普段とは違った音楽を体験しているように感じられました。

講師プロフィール

■土田　浩　（つちだ　ひろし）

チェリスト。東京音楽大学卒業後、東京シティフィル、新星日響、九州交響楽団などで活動する。１９８９年帰宮後、県内外で幅広い演奏活動を行っている。また、指揮者としても活動しており、０２年にはチャイコフスキー作曲バレエ「くるみ割り人形」を指揮し高い評価を得る。